

明石市議会議員 井藤けいづい市政報告

けいづいレポート



これは私の初心の政治姿勢であり、生まれて良かった明石、住んでよかったです明石、これからも住み続けたい明石のまちを目指して4期目を全うしたいと思っています。

議会においては、今年7月から議会活動に対する思いと行動の相違の事由により、辰巳浩司議員と新しい会派『朋志会』立ち上げました。2人の少ない会派ですが、今まで積み重ねてきた議員・議会活動で培った人脈・実績・成果を大いに活用し、今後も市民の声を井藤けいづいの思いと共に市政に反映して参ります。早速に、27年度に向けた取り組みとして、朋志会から市民の声を市政に反映するように『平成27年度予算要望』を政策部から水道部に至る17部署・40項目にわたって、市長をはじめ各部長と政策協議をしました。

中でも政策部に対しては市制100周年事業と時の記念日の祝日化などに対して積極的に取り組むよう要望しています。

これらを踏まえ、培ってきた4期の実績を大いに生かし、今後も初心を忘れず議会・議員活動にまい進していくことをお誓いいたします。

井藤圭淵が平成26年に取り組んできた議会活動の一部を当紙面にてご報告させていただきます。ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見をお聞かせください。

今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



1 歴史的経緯に基づく友好・姉妹都市提携について

平成 31 年に市制 100 周年を迎え、また同時に明石城築城 400 年となります。

これを踏まえ明石市ではプロジェクトチームを設置し記念の催しを検討しています。

そこで、明石城を築城した播磨明石藩初代藩主である小笠原忠政公の歴史的経緯を踏まえ、長野県松本市および福岡県北九州市(旧小倉市)との姉妹提携を提案しました。

【小笠原忠政公とは】



小笠原忠政（1596～1667）は、大坂夏の陣で父・秀政と兄・忠脩(ただなが)が戦死したため、信濃松本八万石の小笠原家を相続しました。そして当時 18 歳であった兄嫁・亀姫も引き継ぎ正室としました。また、忠政の“忠”の字は将軍秀忠より直々に頂いたものです。

その後将軍秀忠の命により 1617 年に信州松代八万石から播州明石十万石へ国替えし、明石城を築城しました。同年、義父の本多忠政も播州姫路城主になりました。そして、日本一の兵法者である宮本武蔵を小笠原家・本多家の親族間で厚く迎え入れ、文武両道の師範として家臣たちに指南させました。また、武蔵は揖東郡宮本村(兵庫県太子町)出身であり、姫路・明石はなじみのある土地です。



武蔵の庭（明石公園内）



小笠原忠政

また、小笠原忠政は武蔵に明石城下町の都市計画と城内の造園を命じました。その後、1627 年に家臣の田原甚兵衛久光の三男・貞次（16 歳）が、小笠原忠政の推挙の元、武蔵の養子となり宮本伊織と名を変え明石宮本家が創設されました。

そして将軍の命により小笠原忠政は 1632 年に豊前小倉十五万石へと国替えとなりました。

1637 年に発生した島原の乱では忠政は家老となった宮本伊織とともに 6000 人の兵を率いて幕府軍として鎮圧に参加し功績を上げています。また、小笠原忠政はぬか漬けをこよなく愛した大名として有名であり、城下においてもぬか漬けを奨励したこともあり、小倉では現代でもぬか漬けは有名です。

また、2012 年に太寺山高家寺において小笠原忠政夫人である亀姫（円照院）の位牌が見つかりました。当寺の本殿には小笠原家の家紋もある等、明石城を初め歴史的な建造物や文化は小笠原家の歴史を踏襲していることがわかります。



そして明石の礎を築いた小笠原忠政公は松本、明石、小倉へ人と文化を伝えた背景がこのことから見受けられます。代表的な文化遺産は次の通りです。

- ・明石ちぢみ
- ・ぬか漬けの万年床



明石ちぢみ

これを踏まえ、先人の交流をさかのぼり人に焦点を当てた新たな歴史的交流を明石城築城 400 年の節目に、今を生きる私たちがもう一度結び合うことを願います。都市間交流を推進することは街の活性化のみならず、明石市民がふるさと明石の歴史を学ぶ機会にもなり大変意義深いものとなります。



このような歴史的経緯に基づく都市提携例は以下のようにあります。

- ① 奈良県郡山市 ⇄ 山梨県甲府市 名君である柳沢吉里の国替えより
- ② 兵庫県豊岡市 ⇄ 長野県上田市 出石そばのルーツが信州のそば職人より



松本市・北九州市との姉妹提携によるイベントとしては以下が挙げられます。

- ① 松本市、北九州市ともに城がシンボルであることから、3市協力したお城サミットを提案することで城下町・公園・シンポジウムの開催
- ② 音楽に力を入れている松本市と明石市の音楽交流
- ③ 明石薪能、小倉祇園太鼓、小倉薪能などイベント提携

以上を踏まえ、以下の 3 項目について質問しました。

質問 (1) 市政 100 周年事業に関する取り組みの進捗状況について

答弁 企画調整担当部長

本年 5 月に庁内職員で政策課題検討チームを立ち上げ、市政 100 周年記念夢事業をテーマに検討を始めました。現在は他の自治体へ視察を行うとともに、記念事業の今後の進め方や望ましい事業案など、若手職員の柔軟な発想で検討しています。

今後は市議会や市民のアイディアを聞きながらオール明石で取り組みます。



質問 (2) 松本市・北九州市小倉北区との歴史的友好都市提携について

答弁 企画調整担当部長

国内の友好都市提携は兵庫県養父市が対象で、海の街・山の街の特性を活かした交流を行っています。松本市や北九州市を含め、他都市との交流や連携は街の活性化や行政課題の解決を図る上で有効な手段の一つです。一方で交流を通じて、互いの街にメリットを継続してもたらすことが重要であると考え、提携するにあたり地域特性・歴史的なつながり・共通する地域資源・地理的な要因など様々な観点から検討しなくてはならないと考えています。



質問

(3) 築城 400 年に伴う事業推進のための兵庫県との連携について

答弁

企画調整担当部長

現在、兵庫県から具体的な動きはありませんが、市政 100 周年事業と連携を図ることで相乗効果を発揮するものと考えています。今後、兵庫県の関係機関と連携をとつていきたいと考えています。



答弁を受けて

市政 100 周年までまだ 5 年ある状態なので、取り組みが手探りの段階であることが分かりました。細かい内容はこれから順次決められて行くわけですが、明石市内だけで小さくまとまるのではなく、兵庫県そして全国に明石を広く知らしめるまたとない“チャンス”だと井藤けいづいは考えています。

これを機に明石の正しい歴史を市民のみならず多くの人々が知ることができるよい教材として活かせるよう、今後も質問で挙げた都市間提携を推進していきます。

これから市の取り組みにご期待ください。



地元の正しい歴史を知ることでますます明石を好きになってもらうことが大事なんや。市外からもたくさん的人が明石に来てもらえるようにありきたりのイベントだけではあかんのやでえ！

2 人丸小学校から明高下までの歩道拡張工事について

平成 17 年より本会議において、私の懸案事項のひとつに挙げていた明高下交差点～人丸小学校に至る県道有瀬大蔵線における歩道の拡張を訴えてきました。右図の区間が工事対象区間となります。この道路は朝の通学時間帯においては、通行車両も多く、歩行者は明南保育所・人丸幼稚園・人丸小学校・大蔵中学校・明石高校に通学、通園する児童・生徒と送迎の親、そして地域住民の通勤者で溢れかえっています。

そのような中、歩道部は自然と小学生や幼稚園児を優先して、中学・高校生は車通行量が多い大変危険な車道を歩いています。特に雨の日は、傘がぶつかるためさらに危険が伴っており憂慮すべき状況が続いていました。

これまで明石市に働きかけていましたが、明石市の市道ではないため、県と市の行政環境の違いにより保留されてきました。このままでは事態が打開できないことより、井藤圭湍は平成 26 年 10 月に直接兵庫県庁へ事態の解決に向けて協力を訴えました。おかげさまで平成 27 年 3, 4 月頃から工事を着手することが決まりました。予算の都合もあって 4, 5 年を要しますが、県道有瀬大蔵線の歩道リニューアルによって子どもたちや地域住民の方々を交通事故から守ができるとあり、本懐を遂げられます。

ただ、歩道の拡張工事中の通行には、くれぐれもご注意を頂きますようお願い致します。いろいろとご迷惑をおかけしますが、工事期間中はご理解とご協力よろしくお願ひします。

